

## 学校教育における福祉教育のあり方を探る

### I 研究の内容

- 1 各校の福祉教育の実践や様々な実践例から学び合う。
- 2 福祉教育のあり方を探りながら, 研究授業に向けて部会員全員で授業づくりを行う。
- 3 理論研究, 施設見学を通して, 福祉について理解を深める。

### II 実践・研究授業

#### 1 各校の実践報告・実践事例学習会

各校の福祉教育の実践や部員各自が収集した実践事例から互いに学び合い, そこから統一授業研の授業づくりに向けて方向性を話し合った。

#### 2 学習会

「高齢者疑似体験」

学習内容

- ・高齢者への理解
- ・高齢者疑似体験
- ・質疑応答

#### 3 研究授業

第3学年 道徳 主題名 温かい心を大切に 2 - (2) 思いやり・親切  
教材名 「1さつのおくりもの」

後屋敷小学校 山宮 由紀 教諭

##### (1) ねらい

○相手を思いやり, 進んで親切にしようとする心情を育てる学習を行う。

##### (2) 本時の学習

- ・宝物は何かを発表する。
- ・「1さつのおくりもの」を読む。
- ・主人公クマタの気持ちを中心に話し合う。
- ・自分の生活を振り返る。
- ・自分たちの生活の様子を交流する。
- ・クマタがもらった手紙を紹介する。

##### (3) 研究会より

- ◇いろいろな工夫（大型テレビ・時計・シール・手紙など）があり, 児童を授業に引きつけることが出来ていた。
- ◇ペア学習・ギャラリーウォークなど学習形態にも工夫が見られ活動の支援につながった。
- ◇相手のことを思いやるというねらいは意識できていた。

- ◇「あげる・あげない」の発表を交互にさせることで、揺れ動く気持ちがよく表れていてよかったが、どちらかに決められないという選択肢があってもよかった。「あげない」のほうに、どちらかに決められないという迷いが書けている子がいた。
- ◇「あげる・あげない」の揺れる気持ちを自分だったらどうするか考えさせ、話し合わせてもよかった。行動面だけでなく、親切にするとはどういうことなのか心情面にもう少し迫っていったらよかった。
- ◇福祉教育を道徳科で行うことで、難しさもあり、3年生でどれくらい議論させることができるか今後の課題である。

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

- 資料の持ち寄りでは、授業を部員みんなで作り上げるという意識を高めるためにも、自分自身の学習としてもよい機会になっていると思う。
- 研究授業の検討や実践報告では、持ち寄った資料や実践を交流し合い、道徳、学級活動、総合的な学習など様々な領域にわたって「福祉」の授業や取り組みを実践できることを学んだ。
- 1時間の授業の展開を通して、教材を十分に吟味し、事前の準備や当日の各展開部分でのねらい、児童の活動についての予想、手立てなどを研究することができた。道徳科と福祉教育の関係性や授業構成の工夫について、深く学び合うとても良い実践になったと思う。
- 夏季学習会では「高齢者疑似体験」を行い、身体が不自由になることの大変さを知ることができ、とても勉強になった。これからの福祉教育の実践に生かしていきたい。

#### 2 課題

- 学校全体が多様性を求められ、対応していくのがとても難しい時代だと思う。福祉の視点は幅広く対応できるので、もっと生かしていけるよう努力していきたい。
- 研究授業の教科の広がりのためにも、中学校の先生にも本部会に入ってもらい、いろいろな視点から研究を深めていきたい。
- 今まで持ち寄った資料はとても価値のあるものとなっている。今後、いくつかのカテゴリーごとに資料を整理し実践の場で使えるようにしていくのもよい。

#### 3 成果物

- 統一授業研の授業づくりのために持ち寄った実践資料
- 統一授業研の授業案
- 実践報告学習会で報告された実践

(部長 中村悦子)